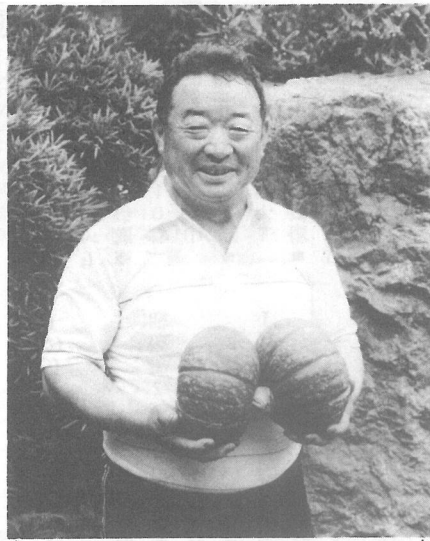


これはビックリ

双子カボチャ



重さ 4.3キロの双子カボチャを
手にする柳橋さん

1つの茎に2つの実のなった珍しい双子カボチャが長倉の柳橋敏博さん宅で収穫されて、話題になっています。このカボチャはエビスカボチャと呼ばれる品種で、1つの直径が18センチ、重さは2つで4・3キロもあり、め花が2つついたカボチャに柳橋さんが人工交配した末の傑作？見事に育った双子カボチャにこの道14年になる本人もビックリ。生産地で知られる長倉地区でも、見るも聞かぬ、初めてだそうです。

私のひとこと



目の前に広がる田園から、盛夏とはいえ何と心地よい清風が身体の中を通り過ぎて行きます。このような自然な環境の中に、私は理容・美容店を営んでおります。

また、非常に進歩的な産業だと思えます。空気や水や太陽に土を原料として、自然との合成で供給する訳ですから……。更に極めて採算の良い職業ではないでしょうか。

土地の開発により地価の値上りは大変なもの、大手の会社の重役などよりはるかに金持なはず。にもかかわらず、後継者に苦勞するということは、昔の農業に対する暗いイメージがあるからではないでしょうか。

歌壇



よこしば

萩原 信一
歟先が梅雨の晴間に鋭く光る
ひとときありて畑を打ちゆく
吉岡 信子
喪にあれば捨てかねてゐる子猫ら
は吾が膝の上に飽かずもつれる
秋葉 とく
収穫をふやさむ思ひに梅雨晴れを
豆の畑に草ひく吾は
掛川 友代

急な坂自転車に下りてくる幼女
逆だつまでに髪ながかせて
北田 ふじ
向つ家の雨どひに生れし雀の子
おぼつかなげに電線に並む
向後 泰治
花苜蓿色とりどりに調和して
絹の光沢みせて輝く
齊藤 要
朝靄はおもむろに消え唐黍を
全身濡らし農婦もぎをり
齊藤 幸子
麻痺の手に母縫ひ給ふ藍染めの
浴衣の針目やや乱れをり
佐瀬 初音
釣りてこし五十五種の大鯉を

池に放つと夫の華やぐ
那須 清江
群れ咲きて花房重きあじさるを
濡らして降れるしらがねの雨
海保 きみ
もろこしの絵にへうまかつたんと
添書の孫の札状壁に掛け置く
宇井 勇
屑鉄の山を見てをりそれぞれに
過去曳き梅雨にしとど濡るるを
齊藤 秀男
掻けば肌赤らみふくる背を
孫は軽く叩かせ眠りに戻りぬ
(選者) 齊藤つね子
大杉の幹間に古りし宿り木の
椎こんもりと青葉繁らす

私から見た農業

吉岡 信男 (寺方)

っております。

私も仕事柄多くの方々と接触し、そのような事を少しでも解消できたらと、皆様と協力して行きたいと思

め、条件的にはいいのではなからうかと思ひます。

農業技術の進歩が週休2日制など簡単に作り出し、レジャーに、買い物に、余暇を十分に活用することが出来ます。

